

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
固澁剂 澁精止遺剂 2		
けいしかりゅうこつぼれいとう 桂枝加龍骨牡蠣湯	調和宮衛陰陽・斂精潜陽	桂枝・白芍・生姜各9g・炙甘草・大棗各6g・竜骨・牡蠣各9g 水煎し服用する。
金匱要略	主治は、陰陽両虚、心腎不交の失精、夢交 虚劳（慢性病、過劳など）により陰陽が共に虚し、陰が虚して陽を涵養できないために虚陽が上浮し、陽が虚して陰液を固護できなくなった状況であり、心陽が下行せず腎陰が上済しないので心腎不交が生じている。虚陽の擾動によるめまい、動悸・不眠・多夢、夢交（性的な夢）がみられ、陽虚の虚寒による陰部の冷え、不消化下痢があり、精関不固のために失精（精液の漏出）を呈するほか、摂血不足による失血（出血）を伴うこともある。失精、失血が慢性に経過すると、精血が衰少し毛髪脱落、脈が芤などがみられる。 桂枝湯で宮衛を調和し中焦を振奮して次第に陰陽を充盈させ、重鎮固澁の竜骨・牡蠣で潜陽入陰させて心腎を交通し、陽固陰守の効果をあげる。 陰陽両虚の不眠・多夢、遺精、遺尿、自汗、盗汗、帯下、月経過多などに応用するとよい。 日本での保険適応効能、効果 下腹直腹筋に緊張のある比較的体力の衰えているものの次の諸症；小児夜尿症、神経衰弱、性的神経衰弱、遺精、陰萎	